SDGs新聞	ピッキオ
ツキノワグマの保護管理	

SDGsラジオを読んでみよう！

道を歩いていて突然クマに出会ったら、どうしますか？
エサを求めて人里に降りてきたクマに、人が襲われる事件が後を絶ちません。一方、人を襲ったクマは、見つかると殺処分されてしまいますが、そのクマも貴重な野生動物です。クマと人間がうまく共存できる方法はないものでしょうか。
野生の動植物の保全に取り組むNPO法人ピッキオは、長野県軽井沢で、まさにその問題に取り組んできました。
この地域に棲むツキノワグマの行動を追跡したり、吠えてクマを追い払うよう訓練された犬を使ったり、クマに荒らされない形のゴミ箱を開発したり。
そうした努力で、市街地でクマを目撃する件数も大幅に減り、年間100件以上あった公共ゴミ箱の被害が、ほぼゼロになりました。
私たち人間は、クマだけでなく、すべての生き物と仲良く暮らしていきたいですね。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

画像参照：ツキノワグマ保護管理（ピッキオ公式HPより）

最近、山間部のみならず、市街地周辺などでもクマ（ツキノワグマ）の出没が問題になっています。この主な原因は、「生息数の増加による生息域の拡大」や「エサとなるブナの実などの不作」により、冬ごもりをするための栄養が足りず、エサを求めて人の住むエリアまで降りてくるからだと言われています。そして人の住むエリアに入ってきたクマは、やむをえず殺処分されることもあります。しかし、クマは野生動物であり、保護する必要があるのも事実。今、「人の安全を守ること」と「野生のクマを絶滅させないこと」の両立が求められています。

画像参照：クマ対策で開発されたゴミ箱
（星野リゾート公式HPより）

長野県軽井沢町で野生動植物の保全に取り組むNPO法人「ピッキオ」は、「人の安全を守ること」・「野生のクマを絶滅させないこと」の両立を目指して、さまざまな活動を続けています。その一つが日本初となる「ベアドッグ」の導入です。ベアドッグは、クマの匂いや気配を察知する特別な訓練を受けた犬で、大声で吠えることでクマを森の奥に追い払います。クマは学習能力が高いため、繰り返し追い払われるうちに「ここに行ってはいけない」と理解し、クマの目撃件数は2006年の36件に対し、2016年は9件まで減少しました。そしてもう一つは「ゴミ箱の改善」です。エサを求めて人の住むエリアにやってきたクマがゴミ集積所を荒らすという被害が相次いだため、「クマが開けられないゴミ箱の開発・設置」を順次実施しました。その結果、1999年の時点では年129件あった被害が、2009年以降はほぼゼロになりました。

キーワード

クマ

世界には8種類のクマがいますが、日本に生息するのは、北海道に生息するヒグマと本州以南に生息するツキノワグマの2種類のみです。

ブナの実

クマの主食の一つで、数年に一度豊作になるといわれています。「ドングリ」はブナ科の実の総称です。

NPO法人

「NPO」は「Non-Profit Organization」の略称で、さまざまな社会貢献活動を行う非営利団体です。

対象ゴール

みなさんにできること！

人と野生動物、自然との共存問題に目を向け、さらに理解を深めてみましょう。

おさらい

- クマの出没件数が増えたのは、生息域の拡大とエサの不足が原因。
- 「人の安全を守ること」と「野生のクマを絶滅させないこと」の両立が求められている。
- クマを市街地に寄せつけないために、「ベアドッグ」という訓練された犬が活躍している。

メモ

SDGsラジオ